

投資銀行業務の情報配信インフラを支えるMultiPortFAX 3 Adv.

企業の成長において、投資銀行の果たす役割が近年、重要性を増している。そうしたニーズに対して、UFJ銀行では投資銀行業務を拡充、シンジケートローンや社債、債権流動化などの豊富な資金調達スキームを提供している。同行の投資銀行業務を支える情報インフラとして活躍しているのが、MultiPortFAX 3 Adv.である。業務変更に応じたカスタマイズの容易さによる柔軟性、送信ログの確実な取得・保管、1サーバ当たり最大32回線まで増強できる高い拡張性が選定の決め手になった。



株式会社UFJ銀行
コーポレートファイナンス部
アドミニストレーション室
調査役
馬渡 未双 氏



株式会社UFJ銀行
コーポレートファイナンス部
アドミニストレーション室
調査役
田中 理 氏



株式会社UFJ銀行
コーポレートファイナンス部
アドミニストレーション室
主任
大谷 和久 氏



株式会社ユーフィット
金融システム本部
金融第三部
砂田 重徳 氏



株式会社CSKシステムズ
金融システム第二事業本部
第一事業部
安江 光洋 氏

カスタマイズ性やログ取得機能、回線の拡張性を検討して選択

企業資金ニーズの多様化と市場型間接金融手法の拡大を背景に、シンジケートローンや債券などの投資銀行業務が活発化している。こうした中、東京三菱銀行との経営統合を控えたUFJ銀行は、シナジー効果を活かしつつ、顧客本位の情報提供力や各種ファイナンススキームの提案力をもとに、この分野での評価を高めている。同行でシンジケートローンや社債などの投資銀行業務を行っているのがコーポレートファイナンス部で、同部アドミニストレーション室では、投資銀行業務を支援する各種システムの構築を進めている。「投資銀行業務は変化のスピードが速いため、システム構築において最も重視しているのは柔軟性になります」とアドミニストレーション室 調査役の馬渡未双氏は述べる。

シンジケートローン業務は同行が幹事銀行になった際の参加銀行のとりまとめや契約書の作成など組成全般を担うアレンジ

USER PROFILE

UFJ銀行

UFJ銀行は東京三菱銀行との経営統合を発表し、10月1日に三菱UFJフィナンシャル・グループを設立した。資金調達・運用、事務・資金管理の効率化、外為・国際業務、経営・事業支援、シンジケートローンなどの投資銀行業務にも一段と力を入れていく構えだ。

ャー業務および、契約期間中の期中金利通知や元利払い事務などを行うエージェント業務からなる。

「シンジケートローン業務では参加金融機関への情報配信などにはFAXが主に活用されています」と、アドミニストレーション室 主任の大谷和久氏は述べる。参加銀行向けの契約書のドラフト送付や金利通知、元利金通知書の送付などで、繁忙期にあたる3月、9月といった期末月には、特定の時間帯に約7500枚という膨大なFAX送信事務が集中する。

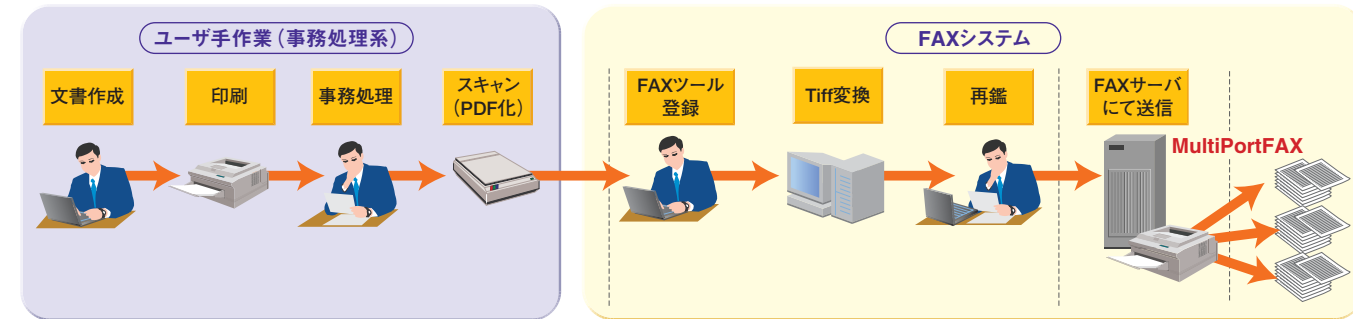
とりわけアレンジャー業務では、参加銀行に対してそれぞれ30～40ページもの大量の文書を確実に送付する必要があり、高い処理能力が求められる。またエージェント業務では金利通知書などの時限性の高い文書を送信するため、システムの耐障害性など信頼性が要求されることになる。

そこで同行では、FAX送信業務のサポート体制強化を図るため、2005年3月に日本ワムネットの「MultiPortFAX 3 Adv.」を導入した。

選定理由は大きく3つ。まず第一は、カスタマイズの容易さによる柔軟性だ。同行では、FAX誤送信による情報漏洩を防ぐため、FAX送信ルールや事務手順を細部にわたって厳しく規定している。個人情報保護法施行以後、一段と厳格になった、これらのルールや手順に沿った機能の拡充を同行内で柔軟に行える環境が必要だった。

第二は、送信ログが長期間残せる点だ。「FAX送信の履歴を日次で保管するルー

図1 UFJ銀行コーポレートファイナンス部でのFAXツール処理フロー



スキャンされた文書は、送信文書管理用のファイルサーバに登録され、Tiff形式に変換されて再鑑（内容チェック）されたのち、送信される。

ルになっており、誰がいつどこに何を送信したかという統計情報を長期間保存することは、セキュリティ対策やシステムの運用上、非常に重要でした」と、FAX送信業務の運用に携わっているCSKシステムズの安江光洋氏は強調する。

第三の理由は、1台のサーバ当たりの回線数を最大32回線まで増強できる拡張性だ。「他社製品は通常最大8回線までで、MultiPortFAX 3 Adv.のような拡張性を備えたFAXサーバは、他に見当たりませんでした」とアドミニストレーション室 調査役の田中理氏は述べる。

導入後は1件の障害もなくFAX送信業務の効率化が進む

構築はスムーズに進み、短期間で完了

した。システムの構築に携わったユーフィットの砂田重徳氏は「カスタマイズ用のAPIが提供されているため、厳しい規定に基づく事務手続きにも柔軟に合わせることができました」と評価する。

APIを活用し、FAX送信時に送信先、送信内容を画面上で再鑑できる機能や、銀行既定のFAXカバーの自動作成機能、FAX送信アドレスや送信ログを文書管理責任者が定期的にチェックできる機能など、同行のFAX送信ルールに合わせた機能を短期間で開発することができた。

導入当初の期末月である2005年3月時点の回線数は8回線だったが、2005年9月には24回線に増設し、FAX送信業務を行っている。送信に伴うオペレーションの効率も簡素化し、事務品質が向上した

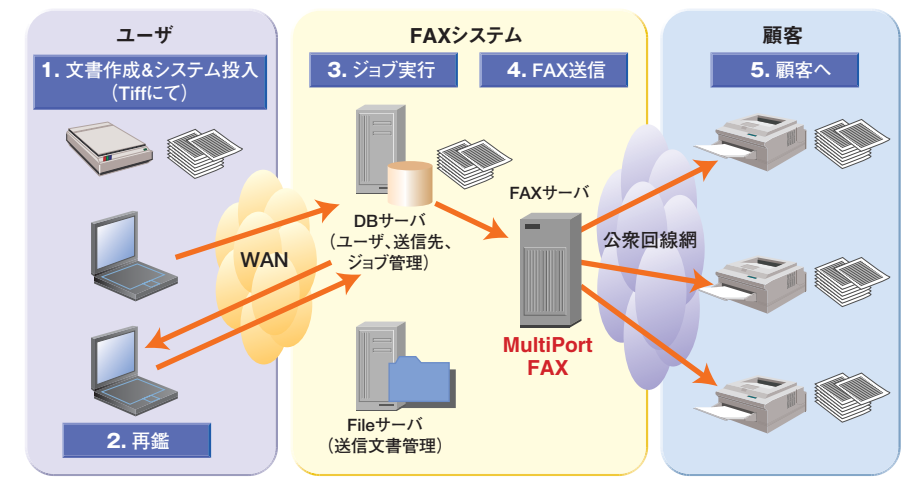
(図1)。

次の期末となる経営統合後の2006年3月にはユーザー数が倍以上に増えることを想定して、さらに56回線にする予定だ。

導入後はトラブルはまだ一度も起きていない。田中氏は、「2005年3月に導入してから、これだけ頻繁に使用しているにもかかわらず、サーバのフリーズや誤送信などの障害が1件も発生せず、安定稼働しています」と語る。大谷氏は「多様化する資金調達スキームや法令変更などに合わせて、現場担当者の手でMultiPortFAX 3 Adv.をカスタマイズしながら、継続使用していきたい」と語る。

今後は、シンジケートローンの通知書など、これまでいったん紙に打ち出して押し切り印を押印していた書類を、電子署名によるデジタル文書に置き換えてFAX送信する考えだ。「別途アドミニストレーション室で開発している、シンジケートローン業務を支援するシステムとMultiPortFAX 3 Adv.の連携を進め、通知書作成からFAX送信までをすべてペーパーレス化し、さらなる作業の効率化、事務リスク管理の強化を図りたい」と馬渡氏は今後の展望を語った。

図2 システム構成概要



作成した文書はまずデータベースに登録。その後、電子化されたデータは担当者による再鑑を経て、公衆回線網を通じて参加金融機関などに発信される。

お問い合わせ先

WAM!NET

日本ワムネット株式会社
新規開発プロジェクト室

〒104-0033
東京都中央区新川1-17-18 白鹿茅場町ビル
TEL: 03-5117-2150(代表) FAX: 03-5117-2155
E-mail: mpf-info@wamnet.jp